

pick up!

「探究的な学び」研究調査委員会

本委員会は、郡市からの推薦と公募による16名の中学校の先生方で構成された委員会です。原則2年間をかけて中学校における「探究的な学び」について考えていきます。
2年目の今年は授業実践の先進事例を深掘りしながら、単元・授業づくりの具体について学び合いました。

第1回

「いいねと思ったそのワケは？」

7月17日(木)

～中学生の探究的な学びを分析する試み～

谷内 祐樹 氏

信州大学教職大学院 教授

【お話と演習】

- ①学習指導要領のおさらい、「総合的な学習の時間」における教員の意識
- ②演習1「夢中になって遊ぶ園児の姿～この保育、いいね」
 - ・資料を読み合わせる
 - ・「いいね」を語り合う
 - ・中学校における実践と結びつける
- ③演習2「夢中になって学ぶ生徒の姿～この総合、いいね」
 - ・岡崎市立新香山中学校の授業実践を視聴
 - (ア)「いいね」と思ったところをメモしながら視聴し、感想を語り合う。
 - (イ)「いいね」と思った理由を分析する、自分の実践と結びつける
 - 方法：「多角的に見る→Yチャート」「関連づける→コンセプトマップ」「変化をとらえる→プロトダイアグラム」のうち1つを選んで、グループごとに分析する。



第2回

「生徒が探究的に学ぶ単元・授業づくりを考える」

8月5日(火)

大村 龍太郎 氏

早稲田大学教育総合科学学術院准教授

【講義とディスカッション】

◇具体的な事例をもとに「探究的な学習」のポイントを考えてみる

〈事例1から〉

- *子どもの論理で追究が続くのが探究活動→活動がいくら探究的であってもそれがノルマであつたり、活動自体が目的化しては探究活動にはならない。

〈事例2から〉

- *テーマを立てられない生徒→いい問いとは？ 教師は「つなぎ役」
- *教師のあり方のポイント…到達目標よりは方向目標
- *総合の評価はなぜ難しいと思うのか→目指す姿がぼやけているから（具体的な姿で評価してあげればよい）

〈事例3から〉

- *探究で一番大事なことは余裕をあげること
- *教師はどんな「つなぎ」や「アドバイス」ができるかが鍵
- *教師と子どもの学び（探究）の同型性を大切に
- *迷ったら、「どうやるか」ではなく「何を狙っているか」に立ち返る

第3回

「伊那市立伊那中学校(学び創造研究会)の授業に学ぶ」

11月28日(金)

○テーマ1「伊那市立伊那中学校(学び創造研究会)の授業に学ぶ」

- ・伊那中より研究の概要及び当日の様子について説明
- ※伊那中研究主任田中達也先生、小山委員
- ・授業を参観した委員(5名)による視察報告と質疑

○テーマ2「伊那中以外の公開授業に行かれた委員の視察報告」

- ・渋谷区「シブヤ未来科」を視察して
- ・長野市立松代中学校を視察して

○テーマ3「今年度のまとめに向けて」(グループディスカッション)

- ・次年度自分が実践するための探究的な学びの構想について意見交換

第4回

「R8年度の探究的な学びの構想発表」

2月10日(火) オンライン

- ・事前に提出してもらった各自の構想を発表、グループごと意見交換を行う

委員の感想

第1回

材と「もの・ひと・こと」との関係性を思考ツール等を用いて整理したり、分析したりすると材の価値を再認識できたり、探究的に学びがいのある材なのが見えてきました。・・・他校の実践においても、「いいね!」と思ったことは、具体的に何を「いいね!」と思ったのかを整理・分析することで、言語化することができ、言語化されることで深く学ぶことができると思い、今後もそのような視点で研究授業や教育実践を見ていきたいと思いました。

探究的な学びでは「モノ→ヒト→コト」という広がり、それらをつなげる意識が重要であると学びました。また、活動を継続的な探究へつなげるためには、振り返り(リフレクション)による橋渡しが不可欠であり、これが欠けると学びは断片化する。探究の本質は活動そのものではなく、経験を基に課題を追究し、次の学びへと発展させる営みであることを再認識しました。

第2回

そもそもなぜ、私たちは「探究的な学び」について研究してきたのか、その総括ともいえる内容でした。特に、中学の総合における「時間」の大切さを改めて感じました。これまでは、正直、時間を制限することばかりでした。時間のゆとりを意識的に組み込んで、長野県の過去の実践(白紙単元、信州の生活・総合)と、目標と評価の一体化を融合させて、生徒の意識を大切にしたい方向目標と一緒に考えられるような実践者になっていきたいと、指導観をアップデートできたと感じています。これからも、やっていくと迷うことがあります。そのときは、「どうやるか」ではなく「何を狙っているか」という原点に立ちかえりたいと思います。総合に限らず、教科でも、学びのコントローラーを生徒に委ねられる実践を意識していきたいと、大村先生の余談を聴いて実感しました。

勇気をもたらえる研究委員会でした。とにかく授業を行うよりも、先生方の意識改革や、学校全体に浸透させていくことに心が折れそうになります。その解決策というか、それを遂行するため心が

支えられたような研修でした。「同型性」という言葉がありましたが、先生方にも余白を設けながら、学校全体のデザインを描いていければよいと、前向きにできました。